毎月一回發兌

蠶蟲業方鍼

第五號

蠶蟲業方鍼社

6737

目次

● 社說

○本誌改題に就て　犬童二郎稿
○養蠶家諸君の注意を乞ひ併せて之が實行を望む　練木喜三先生口述　飯島重平筆記

● 特別寄書

○生糸貿易改正策　長野縣　内藤太平君寄稿
○蠶業分離論　群馬縣　霞山生田島定邦君寄稿
○但馬の養蠶製糸　神戸又新日報記者村上定君寄稿
○飼桑の說　福島縣農商課　渡邊明義君寄稿
○祝辭　山形縣農商課長兼農事講習所長　室田充美君寄稿
○蠶業方鍼の發行ありと聞き喜の餘り所感を記して之を寄す　群馬縣　田島棟平君寄稿

● 質問

○繭の解舒及び生糸の光澤に就て（二件）　熊本縣　赤坂道三君
○佐藤傳平君か第二號第三問の答に就て　長野縣　須田某君
○仝第三號第一問に就て　埼玉縣　養杉居主人君

● 應答

○第三號第四問の答　大分縣社友小俣參伍君
○第四號第一問の答
○農務局蠶業試驗場掛員并教員及傳習生

本誌特別寄書家

（イロハ順）

京都府撚糸場　今西直次郎君
宮城縣農學校々長農學士　今井秀之助君
藝化學士　福島縣　池田常藏君
靜岡縣　伊藤精一君
埼玉縣　飯島辨次郎君
長野縣　長谷川範七君
群馬縣碓氷社々長　萩原鐐太郎君
山梨縣蠶絲業取締頭取　八田達也君
農商務技手　本田岩次郎君
群馬縣　德江八郎君
鹿兒島縣　轟木長君
廣島縣　百々三郎君
農商務技手　大林雄也君
農商務技手　小野孫三郎君
福島縣　大橋伊三郎君
仝　大橋濟君
山梨縣　小野元兵衛君
愛知縣　小柳津忠民君
茨城縣尋常師範學校長農學士　渡瀨寅次郎君
福島縣農商課　渡邊明義君
秋田縣　川村永之助君
福島縣　菅野平右衛門君
仝　菅野廣藏君
山梨縣　川口釀作君
茨城縣尋常中學校教諭　河村九淵君
鳥取縣倉吉農學校　梶川正溫君
群馬縣高山社授業員　横尾佐十郎君
長野縣　吉澤利八君
農學士米國理學士　玉利喜造君
農商務技手　高橋信貞君
農商務技手　田原休之丞君
栃木縣農商課　田中政恆君
群馬縣高山社副社長　高橋茂太郎君
農務局蠶業試驗場　高野三子之進君
學農社々長　津田仙君
農商務技師　練木喜三君

長野縣　長岡萬平君
熊本縣　長野濬平君
神戸又新日報記者　村上定君
山形縣農商課課長兼農事講習所長　室田充美君
群馬縣農商課　久野久君
京都府勸業課　山田以久一君
鳥取縣倉吉農學校　安田英吉君
群馬縣養蠶改良高山社長　町田菊次郎君
宮城縣蠶絲業組合取締所　松本眞三郎君
農商務技手　松永伍作君
長野縣均業社々長　藤木善右衛門君
仝縣明十社　藤塚吉二郎君
廣島縣　藤井鎮三郎君
農商務技手　船津傳次平君
東京府　藤戸竹綱君
鹿兒島縣　兒玉實詮君
長野縣東行社　遠藤万作君
福島縣　淺野德三君
群馬縣　新井捨十郎君

長野縣東行社　青木甚九郎君
仝縣均業社　佐藤八郎右衛門君
農學士農藝化學士　澤野淳君
東京府　佐々木長淳君
農學士理學士　佐々木忠二郎君
福島縣　佐藤傳平君
農商務屬　齋藤素軒君
福島縣　佐藤源之助君
島根縣農商課　三島丈之助君
埼玉縣　清水宗德君
農商務技手　芝山宗太郎君
群馬縣　毛呂正容君
仝縣前橋製絲所　森田眞君
福島縣　桃井與五右衛門君

蠶業方鍼第五號　明治廿二年四月十八日發行

社說

○本誌改題に就て

犬童二郎稿

吾人は去ぬる二月の憲法發布に由て聖恩に浴したる者あり吾人ご〻の熱望大旱に雲霓も啻あらざりし帝國議會も亦將に明年を以て開設せらるんとす我邦か歐米の文明國の仝列ゐ入り吾人々民ゝ立憲政治の下に運動するも亦此時にあり豈愉快ならぎや雖然退て之を考ふる時ハ我邦ハ歐米の文明國ゑ對して耻る所あきか試ゑ看よ苟も立憲政治の國にして治外法權てふ非理無道れ羈絆を受る國あるか憲法發布の以前ハ暫く問はぎ己に發布せられたる今日に在てハ治外法權の撤去ハ實に猶豫すべからざるあり此事や從來當局者ご〻の苦心勉勵せられたるゑも拘ハらす其功を見る能ハずして終に中止の運命に至りたる所以の者ハ蓋し條理一邊の許す可らざる者ありて其間に存するに由るならん吾人の思考する所を以てする時ハ國家の實力足らざるご故にあらざるか何をか國家の實力と云ふ富是れあり

シェユー氏云へるあり富ハ世界を動かすの機軸ありと以て富の勢力の絶大ある

を知るべし苟も國家して富ある實力を有する時い何ぞ治外法權の撤去せざるを憂ん故に眞に憂國の志士ありて國家百年の大計と立んと欲する者い皆富國の策を講せざるはあらざるあり然らは富國の策を講する如何曰く外國貿易を盛んにするに若ざるあり之を盛んにせんと欲せい生絲の輸出をして多からしむるより良策あらさるあり然るに其生糸たるや今日我邦貿易品の主魁たるにも拘らず其危きと風前の燈火も啻あふさる者あり豈に概嘆せざるべけんや

試に眼を開て近くは支那遠くは以佛の蠶業を看るゑ大に注目せざるべからざるものあり元來支那ゑの多額の生糸を產出するゑも拘はらず我の生絲ゑ歐米の市場に向て勢力を有する所以の者はそも何に由て然るか只彼れに先つて改良を加へたる一事あるが爲めのミ又以佛の如き殊に精巧の生糸を產出するにも拘はらず我の生糸か之に向て聲價を博する以所の者はそも何ゑ由て然るか吾れの勞力賃銀の低度ある一事あるか爲めのみ然るに近來支那の如き銳意熱心生糸の改良に從事し吾れと頡頏を試んとす以佛の如きも亦た其計畫する所あきゑあらさ彼れの智力に富める一朝器械の發明ありて生產費を省ぶき低廉に生糸を製出するあら

んか吾れ依て以て金城鐵壁と爲す所の勞力賃銀の低度は到底彼れの精巧ゑ當るべからず故に我生絲として益々歐米の市場ゑ聲價を博し華主を求めんと欲せば一方に向ては彌々良繭を造り良絲を製し又一方に向ては彌々生產費を省減し低廉ゑ輸出するとを謀ふざるべからず

由是看之は我邦蠶業の改良は實ゑ時機切迫せる者と云ふべし雖然漫然之ゑ改良進步を圖るべきものにあらず例せは四面渺茫際涯あき萬里の波濤を超て遂に能く彼の岸に達するとを得る所以の者は徒らに航路を駛る所の蒸瀛力あるか爲めのみにあらざるあり必すや之か航路を誤まらしめざる者即ち方鍼ある羅針盤ある者なかるべからざるあり蠶業も亦然り苟も改良進步を圖り彼の岸に達せんと欲せは之か進路を指示そる所の方鍼なかるべけんやこれ吾人か時勢に迫まられ微力と顧みるに遑あらさ敢て此大業ゑ當る所以ゑして萬止むを得さるゑ出つるものなり今や又有名ある學理家老練なる實業家の之と贊助するありて益々吾人か蠶業上取る所の方鍼をして其指示する所を正し且明らかにせしむ吾人の發行する所の蠶業方鍼決して世人を誤まふざるあり世人請ふ續々發行する所を見ふ

れよ

○養蠶家諸君の注意を乞ひ併せて之か實行を望む

農商務四等技師　練木　喜三先生　口述
飯島　重平　筆記

養蠶の豐凶い之を大ゑしてい一國の經濟の消長ゑ關し之を小ゑしてい當業者の一身一家の盛衰興敗ゑ關そる者ゐれば豈茲ゑ心を留め意を注かざるべけんや我々其局ゑ當る者其念絶えて腦裡と離るゝ時いわらざるゐり僕指すれは本年も早巳ゑ四月の中旬とゐり養蠶期節も間近くなりゑゝり思ひ起す昨年我か養蠶社會ゑ一大變動起り蠶兒の生命を繫く所の食物即ち桑葉の缺乏を告げ苟くも蠶を養ふの地い本場と新場とを問はず到る所殆んと「桑葉足らず嗚呼之を如何せん」との嘆聲を聞かざるおく日夜東西ゑ奔り南北ゑ走せ一束の桑葉たも人相競ひ相爭つて之と買はんとす爲めゑ桑葉俄かゐ非常の騰貴を來さし一時某地方れ如きい僅ゐゑ一駄の桑ゑして四五圓より七八圓の高價に上ゐれり是ゑ於て養蠶社會一層

の騷擾を招き瀛車れ便あるところ舟楫の通ふところい四五里若くい十數里の外より桑葉を運搬すと雖も尚ゆ足らずして幾千万の蠶兒い飢餓ゑ迫りて死ゑゐんゝとそ之を投棄せん歟貴重の桑葉を給し心力を勞したるを如何せん之を養はん歟桑葉の欠乏を如何せん良しや桑葉と買ふて之を養ふも其得失相償はゞ一家の盛衰興敗ゑ關するを如何せん是ゐ至りて養蠶家の困難窮まりといふべし聞く所ゑよれば此の際斷然見込と立て蠶兒を投棄して所持の桑葉を賣却し所謂る一攫千金れ利を博したる者あり或い姑息ゑ流ゐれ損益をも顧を强て養さんとして遂ゑ衣裳典鋪ゑ入り桑葉に化したる向きもあり或い百計盡きて泣々蠶兒を河中に投じたる向きも甚た多く蠶兒之か爲ゑ水車ゑ懸り運轉甚た困難せりとの奇聞を傳ひ今ゑ至る迄茶話の談柄とゐり居ると云ふ以てその悲態慘狀實に想ひ遣へきゐり吁々是れ天歟人歟蠶を養ふ者豈ゑ深く戒め深く顧みざるべけんや凡そ物原因あれば必ふず結果あり結果われを必らず原因あらざるなし故ゑ右の如き一大變動の養蠶社會に現出したるい其原因那邊ゐ在るのと探究するい養蠶家の最も必要ゐる事なるべし今其原因と探究せんに第一昨年四月の交に當り

氣候甚だ不順ゐして寒暖其序を失ひ晴雨其宜しき得ぞ旁々以て桑葉の發育惡かりしと第二蠶兒掃立の枚數桑葉全体の產額ゐ對して大ゐ超過したると第三近時我蠶種ゐ微粒子病毒大ゐ減少して蠶兒の無事ゐ發育するもの多きを加へたると是れ也今其一二の例を擧て之を証せんに昨年或人某縣某郡の養蠶教師に雇はれ某傳習所に至り蠶種掃立の枚數如何程ありしやと問ひしに「其數十五枚にゐ」と答へたり因て桑園い如何程ありやと問ひしに「桑園の用意い未た少しも備座なくゐ」と答へられたりと此の如く自己所有の桑園とてい更ゐ之れなく全く他人の桑園を目的として蠶を養はんと欲する者豈に啻に某傳習所のみならんや例へい何處某處の桑園い何町何段あり誰某の桑園い何段何畝あり此桑葉と買入る時い以て蠶種若干枚と飼ふとと得べし抔と甲之を目的とすれは乙も亦た之を目的とし丙丁戊も亦た之と目的として蠶を養ふか如き是れなり故ゐ甲ゐして其目的ゐ違はぞ其豫望と達すれバ乙丙丁戊い忽ち桑葉の缺乏を告くるに至る乙丙丁戊の一人其豫望を達するも亦た然り需求の狀況夫れ此の如く急なり設ひ氣候順當にして桑葉の發育十分あるも如何ぞ桑葉の欽乏を告くるゐきを得んと欲するも豈に得へ

けんや況んや氣候不順にして桑葉の發育十分ゐらさるゐ於てゐや之に加ふるに疇昔に在てい蠶種一枚に付成繭八九斗乃至壹石い成繭を收獲する時い恰も鬼の頭を得たるゐ如き思ひをなせしも近時い無病の蠶種を掃立れば一枚の蠶種ゐ付き壹石五斗内外の收繭を見る敢て難しとせそ以て疇昔に比すれば多く桑葉を要すると知るへきあり

以上探究したる三原因にして果して其當を得たる者とせは當業諸君は再ひ其覆轍ゐ陷ゐるなかちんとを勉めさるへからず本年も二三月以來兎角に氣候不順にして寒暖常ゐらず忽ち春風和氣黃鳥として咽喉と轉じ頻りに好音を發せしむるかと思ひば忽ち寒風肌を裂き梅花として芳を閉ち香を收めしむ別けて此の四月に入りてより寒暖晴風其宜しきを失ひ東台の早櫻墨堤の晩櫻笑はんと欲して唇と閉ちしと幾度ぞ若しも此分にして推し行かは亦たそろ桑葉の發育昨年の如くならざるを保せず知らず當業諸君は如何にして此の影響を避けんと欲するや是れ余か當業諸君に向て注意を乞ふ所以の第一ゐり又た眼を開て養蠶社會の有樣を看察するに昨年十二月の頃より本年の首めに掛けて生絲の好景況ありしより昨

年の失敗者は殊更に數多の蠶種を買入れ又新場の養蠶者に在ては僅々たる桑園を有し之に倍蓰するの養蠶を爲さんと欲する者多く其甚たしきに至りては全く他人の桑園を目的とし所謂他人の犢鼻褌を以て角觝を取らんとするの輩も亦た鮮からざるが如し頃者或人養蠶を以て著名なる某縣某郡の本年掃立つべき蠶種の枚數と現在の桑園とを實地に調査せしに本年掃立つへき蚕種の數は一千二百三十三枚にして現在の桑園より收獲し得へき桑葉産額は十七万三千七百三十九貫目に過ぎずといふ今ま蚕種一枚に付桑葉二百五十貫目を用ふる時は一千二百三十七枚に對する桑葉は三十万八千二百五十貫目を要するなり然り而して現在の桑葉産額は十七万三千七百三十九貫目に過ぎずと云ふ時は十三万四千五百十一貫目の不足にして蚕種の桑葉の産額に超過すること殆んと倍せり此の儘にて前數の蠶種を掃立てんか設ひ氣候適順に歸し桑葉發育十分なるも其大半は桑葉の不足を告くべきと數の明示する所にして識者の辨を俟たずして知るへきあり知らす當業諸君は如何にして此の桑葉の不足を免かれんと欲するか余は恐る本年再ひ昨年の覆轍を蹈まんことを是れ余か當業諸君に向て注意を乞ふ所以の第二

あり又た一つには當業諸君か斯の如く桑葉の産額と不權衡にも多額の蠶種を買入れたる所以の者は近時蠶種大に改良を飼育の中途にして斃死する者昔日に比してすくなきことに心附ざるによるものならん是れ余か當業諸君に向て注意を乞ふ所以の第三なり

然りと雖も當業諸君は既に蠶種の購入と終りてより早や數月を閲せられたれば幸に予れ注意と容られ豫め前陳の困難を避けんと欲せらるゝも最早今日となるとて速かに其枚數を減ぜて種師に返附せんとせらるゝも決ぜて能とさるべし去りあるから今に及んで其大半を看すゝ投棄するは人情甚た爲し難きとならん加之あらず經濟の点より見るも亦た其策を得たる者に非ざれば當業諸君は一舉兩全の方法を案出し何とか之か處置を爲さゝるへからず余の思考する所に據れは種師は兎に角普通の養蠶家は平年より少しく遲めに掃立て且掃立の際中頃一齊に發生せる者のみを掃立て前に發生したるもの及び後に發生すべき分は斷然投棄して掃立ざると第一の良策ありと信ずるあり左すれは諸君か高價を以て折角買入れたる蠶種の大半を無益に投棄するにも及はず加之あらず最初に發生する

者は之と別に掃立る時い大に手數を要し又仝時よ掃立る時い蠶兒の發育一齊あらずして飼育上大に困難ある者なれは之を掃立さる方却て利益あり又た後れて發生する者と大槩虚弱性にて彼の怖るへき微粒子毒の如きは殊に是等に多く寄生し居る者あれば到底良繭を得るの望みあきのみならず或と半途にして斃死する者も尠からされば是等の蠶兒を飼育する時は桑葉の成長せざる時即ち其最も貴重なる時に於て徒費するの大損あるのみかは飼育上大に手數と要しかて、加へて之ゑ爲めに四眠前後に及んで桑葉の缺乏を來たし前述の如く蠶兒を河中に投ずるゝ如き不幸よ遭遇し功を一簣に缺くなきを保せそ豈に惜むへきことにわゆずや之に反して中頃一齊に發生したるものゝみを掃立つる時と單に貴重の桑葉と徒費そるの虞あきのみならそ蠶兒の發育一齊にして且健全にして飼育上大に手數と省ぶき而して其收獲は割合に多き者あり今ま其の實証を擧げて之を示さんに一昨年農務局蠶業試驗場に於て微粒子病に罹りたる蠶兒の狀態を仝場傳習生又は參觀人に示さんか爲め有毒の蠶種を擇らんて之を掃立しに案外にも蠶兒殊の外强壯活潑にして其成長頗ぶる宜しきもゑ若しや蠶種の檢査上に誤まりあからんかと思ひ之を取調べしに檢査は素より精確にして其有毒の者たると毫も疑ひあしと雖も掃立の際前に發生したる者と後に發生すべき分とを悉く投棄し全く其中頃一齊に發生したる者のみを飼育したりとの事實を發見せり是に由て之を看は掃立の際其中頃一齊に發生したる者のみと飼育するは病毒殄滅の旨意にも適ひ且つ大に桑葉の徒費を防き飼育に勞を省くを以て自然經濟の原理にも適ふものゑれバ本年の如きは勿論平常の年に於けるも亦一般右の方法に依りて蠶種を掃立つるい最も其策を得たる者あり因て其概略を陳述して當業諸君の注意を乞ひ併せて之か實行を勉められんとを希望そると如斯

○論說

生糸貿易改正策

長野縣　內藤　太平君寄稿

生絲い我國の一大物產よして本邦之れ無からんか外國貿易の權衡を保つべくも鐵艦を購入して運輸海防の用よ供し鐵道電信の原料を求めて內地交通の便を開き其他百工技藝の機械を始めとして苟くも我國開明の進步を圖るに於て必要

缺くべからざる文明の利器ハ夫れ何を以て之を得るかと問ひば皆生糸の交換力に頼ると云ふも決して過言ヨ非ざるべし左れど其業の盛衰ハ以て我國の經濟ヨ大關係と有すると今更多辨と俟たす而して我國の氣候地味頗ふる養蠶に適する故を以て全國至る處山間谿谷と雖も桑樹の栽培に適せざるなし實に養蠶ハ農家の經濟より見るも其收益頗ふる多く之を米麥と作るに比すれど殆んと二倍餘の利得あり故に今日の勢ひに在ていハ養蠶業の増加するも決して減少するの憂あらざるべし特に近時に至り各地に於て桑苗の増殖ハ實に夥しく一億五千万本以上に至れり他に障害の來りて之を妨くるヨあらざんバ向ふ五年間に生糸の產額二拾萬個ヨ達すべしとは失當の算にあらざるべし夫れ斯の如く養蠶業の進歩を來たせる所以の者ハ別に内地に於て需要の増加去たるにあらず又將來増加の見込ありて然るにあらす之を販賣するの目的ハ海外の市場に在りて其大半ハ輸出に供するに過ぎず然るに飜りて現今生絲貿易の實況を看察すれハ取引上種々の弊害多く其不規律不整頓なると實に言ふに忍びざるものあり而して其弊害の最も甚たしくして眼前其實跡の著しき者ハ毎年荷物横濱に停滯して多きハ二萬七八千

個に上り少なきも二萬個に下らさるあり然るに我商人ハ之と疏通するの道を知らず一人の賣逃ハ横濱市場全体れ總崩れとあり終に外人れ利する所とあり毎度ながら失敗を蒙むる者少なからず一勝一敗ハ商家れ常とハ云へ畢竟そるに我商人ハ目前れ小利を得るに鋭敏あるも遠大れ利を謀ることを知らそ只横濱れ市場あることを知りて海外れ市場あることを知らそ故に一朝外人買氣と催せハ滿場忽ち望外れ高價を唱へて互に賣惜ミ其極動すれバ賣込れ機會を失ひ或ハ之に反して外人買氣を控もれハ忽ち狼狽して投賣を始むる等一舉一動外人れ術中に陷らざるもれ殆んと稀れなり之を括言すれハ我商人ハ自働れ力に乏しくして常に他働れ力に支配せらるヽもれと云ふへし如何ぞ商權れ彼れに歸そるなきを欲するも豈に得べけんや故に苦去今後生絲れ產額益々増殖するに隨て横濱に多數れ荷物留滯するに至らハ賣捌上一層の困難を感すると當さに然るへきの理にして相場の下落忽ち營業者の損毛となり其餘波延ひて生產者に及ひ終に失敗の餘り業を廢止するに至らん(昨年末より本年一月に掛けて生絲の景氣ハ宜しかりしにもせよ)又全國數萬の桑田を變じて荒蕪の地となし今日の寸進ハ他日の尺退とあり養蠶

業の非常の惨狀を呈するやも計る可らぎ若し不幸にして斯る反動は悲況に遭遇
する時は本邦は富源之か爲めに涸竭し經濟上甚た容易あらざる結果を見るに至
らん故に其弊害を除かざれは到底我生絲貿易をして安全は地位を保たしむると
能はざるへし且つ其弊害たるや皆人爲取引法は不整頓より起る者あれは之を矯
正するも亦た人爲は力に依らざるへからず左に現今取引は實況を掲け漸次救治
は策を設け併せて販路擴張の事に及ばんとす

本邦の養蠶は農家一種の常業にして自家勞力の度に應じて蠶兒を飼育するを以
て特に資本を他に仰くの煩ひあしと雖も製絲家は然らず大抵自己の資本に乏し
くして得意先の問屋或は銀行に就て資本の前借を爲すものなれば製絲出來の上
は直に之を債主に送付すると常とす故に幾千個を製し得ると雖も物品は悉く製
絲家の手を離れて早既に債主の所有に歸す然るに此等の製絲は元最高の相場を
標準として金融を謀り原繭を仕入れたるものなれは其原價割合に高くして自然
の相場に任し難きものあり又賣込問屋ゟの前貸金の代りに引取りたる物品あれは
損失ある以上は之を賣捌かず且つ横濱賣込問屋の通弊として多數の送荷を地方

より引込まんゟ爲め競ふて荷爲替の歩合を寛にし例へは甲店にて生絲一個三百
圓にて荷受を爲さんと約すれは乙店は三百二拾圓にて之を引受けんと云ひ甚た
しきは私に虚構は高價を報告して送荷を促ゟさんとする者あり顧みて横濱市況
に照らせは到底右價格を以て賣捌くと能はざる相場より高きは一個に付二拾圓
若くは三十圓の差違ありと雖も元と賣込問屋なる者は荷主ありて然る後其依托
を受引けたる者なれは損益上に何等の關係をも有せざるを以て損あれは之を荷
主に請求し益あるも之を荷主に返附するは約束にして金融は及ふ限りは飽迄も
荷受けを諾するもはなりと雖も地方は荷主と稱する者は固より商略に通せず其
安危は自己の與り知る所にあらされは賣捌方は進退は一に賣込問屋は掛引に放
任し只僅に荷爲替は便宜を利用して一管は絲と雖も金融は資に供せんとを惟れ
勉め孜々汲々として多製は外餘念なきか爲め終に原繭買入は競爭となり隨て糸
價を騰貴せしむるに至る毎年新絲は盛季に際して地方は相場却て横濱は相場よ
り高きは職と云て之に由らずんはあらざるなり　（未完）

糸業分離論

上毛　霞山生　田島定邦君寄稿

世間事物の働きを觀想するに其表面より之を見れい其總体と一括し得らるゝか如き者にても之の裏面に立入りて觀察するときい種々に區分すへき者あり或い一体と三分し或い五分或い七八分とし其業務の性質に由て之を區分し細別せざるを得さる者あり即ち所謂分業得精の法なる者にして社會進化の度益々高けれい則ち益々之か區分と正格よすべきものとす我蠶業の如きも亦此理と免かるゝと能はさるなり即ち之と大別して左の三の者を得曰く蠶種製造家曰く養蠶家曰く製糸家是あり三者の中皆各其部門と分ち部門ごとに渾べて專門業にして孰れも皆分業の大体を占めさるいなし而して只養蠶家の如きい其蠶を養へ繭を收獲して直ちに之と賣却そるか故に其數最も多しと雖も其實前后二者に比それい稍々簡易の業務とそ其後者即ち製糸業に至てい實に最も精巧を要そるの業にして其廣大あると固より三者中れ最高等に居るとい言を費そに足らそ其前者即ち製種家の如きも亦製糸よ次ぐの要目にして最も一專門に屬そるの務めたり人或い云はん素是れ一体の蠶業三者を併せて自已一人に爲し得ると難きにあらそ寧ろ

難きのみあらそ併せて之をおせば一家よして諸事を辨じ其効用分業に勝ると萬々ありと蓋し是れ分業實益の深味を嘗めさる者の空論と謂ふべきあり前已に述るの如く分業得精れ法ある者い一課一課に之を別て其一を精選優美になその眞理に原き其業彌々分るれい則ち其物彌々精あるを得る者にして之を三分そると云ふい只目今の事よして之と分つと七八にすれば本業精練益々其深きに至るを期そへきあり

製糸の業の精巧と要し其益の廣大にして最も一大專門業あるとい世の知る所あり即ち獨立特行の大業とそ次で原種製造業の一專門を占むるも亦尙ほ明のあり今現行れ蠶糸業組合れ組織を見るに一切同体に之を括束し一斗の繭を收むるそと雖も之を賣買それば即ち同業者中たらざるを得さるの規約あれども前陳の理由に由て我製種業者い斷然其境域を分ち以て此條目外に獨立し一般原種製造同業者れ其道を同くそる者を約束そて他れ規律と受けそ我原種製造手續と精細に組織そ最良善の方法を設け專心一意無病精良の原種を製造そて廣く天下れ養蠶家に其益を配當せんと欲そるにあるれみ

斯くの如く一々大業あるに之を一括そるときは製絲家者流より出す所の人物と原種性分れ理合之か商業の都合等種々入込みたる理を知らす又製種家者流より出す所の人物と素より製糸の精巧緻密なる工業及商業を知らぎ之と孰れよりするも其不都合筆舌の盡すへきにあらぎ姑く之を両者兼知の人を擧げんと欲するも素より期すへからす世の人情と己れの田に水と引く者にて之か爲めに惡意あきも他田の稻を枯らそとあり故に分離の萬息むと得ざるに出るとを知るべし由よってこれとゐるなりとたび是觀之到頭到尾三業と分離し各々獨立して自己の團結をあそにあるのみ

今や自主の氣象東洋地方に漸く布及せんとするに方て亦幸に我政府は自治の制度を設け地方自治の法と立つ此時に於て我蠶業の如きも亦自ら爲その時に會そ何ぞ苦で人の箝制の下に立ち現時蠶糸業規約の如き數業雜人の約束に甘んぎる者あらんや故に我製種家は製種家の一團結を以て必用とそ聞く我農商務大臣は蠶業上自治團結れ正理を講話せられたりと曰く余輩同大臣の施政上に於て一々感服そる者のみにあらずと雖も此一事に於てと最も我黨の心を得たる講話と謂ふべし渡邊華山の謂とゐる「上暗く下明かなれば上忌み下激と」の時代即ち暗黑世

界なれば據ろなけれども今は即ち世局一變上も明らかに下も亦明かなり己に我蠶業の如きも敢て窮屈なる法を恃むべきの時代にあらず統計と知らんと欲すれば專務の統計社なり蠶業普周の事を知らんと欲それば數種蠶業雜誌等あり而して其實業と知らんと欲それば其れか老練者到る處にこれあり何そ態々法を設けて自ら其羅網の中に投そるを好む者あらんや

仁慈なる地方自治を與ふるれ明詔と昨明治廿一年四月十七日に御宣布あらせらる即ち地方共同の利益を發達せしめ衆庶臣民の幸福を增進そると欲し隣保團結の舊慣を存重して益之を擴張し云々と畏くも此聖意を遵奉し精思考案し奉るに獨り地方政治上の自治のみならそ或と組合に仲間に其自治の團結を鞏固にさへそれば敢て他の干渉を蒙るべきものにあらぎ其意を吟味それば己れの業と已れ自らと之とをし只能く隣保團結を自己精神上より團結せよと云ふに在り我平民社會に千古未曾有の自由を與へさせ玉ふたるもれ東洋諸國多く得そして我平民社會に取てと千載一遇の慈詔を謂ふべし

斯くの如く此聖代の慈意を忝ふそるの我党平民にして如何に舊墨を守り人のお

世話に屈從する人民ありとも已に一變せる新世局に棲息して耳目心を備へあがら自己の業務中生命の係る所の本業を擧げて他人に世話せらるゝを喜ぶべけんや故に斷々然として我蠶業上其三者を分離獨立せしめ各自便宜隣保團結に於て便宜に其方向を定め自ら奮て他に對峙勉勵するときは在來の方に比すれば其精を得ること亦甚大なりとす余近頃屢々之を人に語るに皆喜で此理を贊成するあり昔者英人歇羅條例を設くるや專ら外國より入る所の穀物を拒絶し英全内地の豪族地主已れが藏むる所の穀物と高貴あらしめ大に自身の巨利を網せしとゐり國中果して穀物の不足を告げ困難言ふべからちるに際してマンチエスターの一染工にして身微賤より起りたる格伯田なる人あり百難不撓歇羅の大害たることを辨難を始めと諸論客是れ賤工の不平言なりとして之を度外に置き中頃漸く其説の勢力を得るに隨て反對者大に之を説を駁擊せるとあるが格氏慷慨愛民の精神天と貫き遂に歇羅法廢絶社なる者を組立るに至て當時有名なる辨客に去て格氏の反對を試みたるロベルトピールの如きそら之か眞理を認め格氏に降を容れて大に其説を助言辨護去茲に於て世間一同に其法の非と悟り一世の輿論を喚起去

終に歇羅條例を去て廢棄せむ去るに至りしと云ふ我蠶業組合の如き既に輿論の組立たる者の如くに説く者あれども之の弊害を擧ぐるを亦勘からさる者を得べし又我輩邊僻の人民に去て之か一己一已の心意を敲くときは其之を厭ふと壓制々度の下に立つ人民の如く愁へ悲み誰か一呼して此弊を矯正去くれる者はあきかと相集れば之を説くの有樣なり余敢て言を好む者にあらず只其規約の効あきと悟て其當局者か自ら之を撤去すれば可あり故に余は最も穩和に最も靜地に其局を廢收せしめんと欲する者なり嗚呼余は寒鄉の一農夫あり一般農夫は農を力むるに忙しく一筆を執るの勞だも得ずたく實に困難辛苦に耕耘するの人あり余故に我党農夫困難者流の膏血に代り己れも亦此膏血の一部分を他ゑ取らるゝの一人あるを以て甘して執筆の光陰を之か犧牲に供し以て時賢の贊助を仰かんとす

前記の微衷を諒想する時賢は其分業の重んそべく一身一家自己保護の貴ふべきを贊翼して廣く此議の天下に行はれ組合あり會社あり自已の營業各自の相談團結に止めて決して抑へて爲さしむると云ふか如きとと爲そへのらざるを唱道し

興論に由て彼の「コルンロース」の廢棄せられたるか如く此議も亦た干渉と免りるの好機を與へよ敢て大方に請ふ

○但馬の養蠶製絲

神戸又新日報記者　村上定君寄稿

此篇は余昨夏但馬各郡を巡回し各地の養蠶製絲家に就きて取調べたるものを神戸又新日報に登錄せしの今般蠶業方鍼の發兌に際し余の寄稿を求めらるゝより不取敢本稿を送りて其責を免るゝと云爾

養蠶は但馬の特有物産中最も重なるものにして其産出亦た少からぬ兵庫縣の繭生糸は但馬の産出なり試みに明治十九年の統計を製すれば左の如し

第一　桑園反別表

立樹　刈桑　合計

	反	反	反
養父	一〇、一一四、五一三	七三、六〇五	一〇、一八八、一二八
朝來	三、三八六、一二二	一一三、三〇〇	三、五〇一、四二二
出石	二、五一三、〇〇〇	七、五〇〇	二、五二〇、五〇〇
氣多	五、六九〇、八〇〇		五、六九〇、八〇〇
城崎	四、二六四、八二九	八、八二五	四、二七三、七二四
美含	五九八、〇〇五	四、三〇〇	六〇二、三〇五
二方	三三二、五〇〇	二、五〇〇	三三五、〇〇〇

七美	九四二、三二八	六、二〇〇	九四九、五二八
合計	二七、八三三、三〇七	一八六、三七〇	二八、〇一九、六七七
全縣下	三六、九七〇、二一七	二四〇、五一八	三七、二一〇、八〇五

第二　收繭統計表

	春蠶	夏蠶	合計
	貫	貫	貫
養父	五五、三三六、五〇〇	四、六七三、〇〇〇	六〇、四三七、〇〇〇
朝來	二六、一四一、四〇〇	三、一九五、〇〇〇	三〇、二三五、二〇〇
出石	二〇、一四三、〇〇〇	四、九一六、四〇〇	二五、〇九九、一一〇
氣多	二二、五〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇	三〇、四三七、五〇〇
城崎	一〇、〇二三、五六〇	二、五四六、七四〇	一二、六〇九、一三〇
美含	三、六〇〇、〇〇〇	八、四〇〇、〇〇〇	一二、〇〇七、九二〇
二方	二、五六九、〇〇〇	五、七四〇、〇〇〇	八、三五三、〇四〇
七美	一七、五六六、九六〇	六、三〇八、〇〇〇	二四、〇〇八、九六〇
合計	一五七、八七九、四二〇	六三、八九一、一四〇	二二一、七七〇、五六〇
全縣下	一七三、八九四、九二〇	七九、三三〇、二一五	二五五、九〇二、四三五

第三　生糸製産表

	器械糸	坐繰糸	手繰糸	總計
	貫	貫	貫	貫
養父	一二〇、五〇〇	一、四五一、六四〇	二、三八一、七〇〇	三、九五三、八四〇
朝來	四五八、〇〇〇	一三八、六三〇	六三一、三四〇	一、二二七、九七〇
出石	一四一、九一二	一〇五、一五〇	一、四五七、九三八	一、七〇五、〇〇〇
氣多	二七七、八六一	一〇九、五九八	二、一五五、五六一	二、五四三、〇二一
城崎		六二、二五三	一、一〇六、六七七	一、一六八、九三〇
美含		二五八、〇〇〇	六四二、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇
二方			七八、〇〇〇	七五三、〇〇〇
七美	七〇、〇〇〇	五〇九、三四二	三六三、九〇四	九六三、二四六
合計	一、〇六八、二七三	二、七一二、六一三	九、四一四、一二一	一二、五四一、二六七
全縣下	一、三八一、七三三	二、九六三、四二七	一二、一五〇、〇六八	一六、四九六、二二八

第四　同附屬品製産表

	カラ糸	繼絲	眞綿	屑物
	貫	貫	貫	貫
養父	五八三、八五〇	二六三、五〇〇	五二二、〇〇〇	一、四六二、〇〇〇
朝來	一〇四、九三〇	一四〇、二〇〇	八七、八〇〇	一、二六五、六四〇
出石	一六三、四〇八	三五、五七五		五二六、二五八
氣多	八二、六六四	九六、八〇〇	三七七、六〇二	一、〇三八、四〇〇

城崎	六、九五一	四、三八五	三三四、〇〇〇	七美	七五、一三〇	九七、八〇六
美含	一〇、六四八	六、五〇七	八六、九八〇	合計	一、一一〇、五八一	六四四、八九八
二方	八三、〇〇〇		一九、〇〇〇			
			四四、〇四〇	全縣下	一、七四九、六三八	六四八、四九八

八、〇〇〇	二〇三、五三〇	一、〇一四、五〇二
一、二四、七〇二	六、五四一、七一〇	四、八五一、〇四八

但馬中養蠶製糸の最も流行して繭糸産出の多きは養父、朝來郡に若くものなし二方、美含の如きと郡も小なれば從つて産出する繭糸も少く桑園の反別も多からぎ然れども繭質は優等なるは七美、二方ゐして養父、朝來の如きと却つて之に讓るものゝ如し就中七美郡の如きと最も養蠶製糸に適當の土地と評すべき歟第三回繭糸共進會に於てと優等の名譽を博すると能とざりしも其出品繭を檢査せば形狀の完備したるもの少からざれば良品なるべきに惜哉儲藏の法を得ざりしかため黴と生じ遂に審査と受くると能いざるえい殘念なるとあり殊に七美郡の水は製糸に適し拙劣なる工女の製したるものにても其光澤は燦然たるは他郡は企て及ばざる所あり若しも此等の地方に於て養蠶製糸に一改良を施せば將來一廉の物産を製出し郡民の福利を増すと尠少あらざるべし然るに余の通過したる沿道にて飼育する養蠶法は甚だ不完全なるものにして當時の改良育と稱するものより

之を評せば蠶兒の上簇するを不思議と云ふの外なし獨り養蠶のみならず製糸も亦た然り余が七美郡にて一見せし某器械製糸所にては白繭と青白とを混同して製し居たり青白に少量の白繭を混ずるは輸出糸の未だ盛あらざるに當りて世上間行はれたるものなれども現時に於て白繭と青白とを混ぜるは製糸家のために取らざるのみならず日本生糸のために惜むべきとなり是れ或は丹後向あらんと思へども丹後消費者は未だ器械糸を用ゐべき技倆ありとも想像せられざれば或と輸出絲として横濱に積出し再び京都桐生等に積戻すものあらんと推測せり若き我々は推測を去て其當を失はざるもはありとすれば我製糸家の注意未だ至らざるものありと評するも可あらん然れども七美郡村岡近傍にと近頃製糸の業大に興起し器械百釜坐繰二百釜もある趣きあり之に反して養父朝來は后來大に製糸場たるの兆を現し八鹿驛に創業せる五十人取の製糸場は田淵澄氏の設立にして傳習所の名を冠する程なれば工場は体裁自から備いり儲藏の繭も頗る精選けもれ多し然れども本年の開業にして未だ製絲の端を開かざる程なれば今之を評そると能いす殊に製糸い工女の如何によりて評價するものなれば后日と期す

るとゝすべきも蠶絲業に於て名を得たる田淵氏のごとなれば其工女も自ら相應のものと得て傳習所の名を恥しむるとあかるべし之に並ぶものを朝來郡粟鹿の日下製絲場とす同場い十馬力の瀛闘にして七拾貳人取りの製絲場たり余ぞ巡遊中一覽せし製絲場の最も大なるものにして恐くい縣下の最たるものゝらん其工女の老練なるとも或い魁あらん歟と思いれたり其他久土の擴産社の如き五十人取の工場にして創立日久しきも其久き割合にい工業の進歩せざる所あり抔と評そるものもあれども兎に角但馬の一製絲所あり出石の間中製絲場い舊擴産社々長(或い幹事か失念せり)間中氏の本年獨力と以て創業したる四十人取の製絲場にして未だ開業に至らぎ八鹿製絲場と俱に開業する見込の由に聞けり是れ固より創業のごとなれば今之と是非すると能いざるも氏い數年間擴産社に在りて製絲業に從ひ其經驗もあるとあれば田淵氏と相並んで但馬絲改良の重任を帶びたる一人あらん歟其他小工場所々に散見したれども但馬國中一昨年の器械製糸い一千貫目あれば別に記すべき程のものなし(養父郡新井に太田垣製絲場あれども之を一見そるの暇あかりし)併あぞら余ぞ此等の製絲場に於て頗る奇異の感覺を起し他

日如何あるべき歟を疑ふて製絲家に質せしい四口取あり蓋し四口取の器械い前年福島に於て失敗と招き長野上州邊の製絲家の最も禁ずる所あり然るゝ我但馬の製絲場い大概四口取ゝして二口のもの甚だ少し製絲家の説ゝよれい工女の技倆に從つて二口三口或い四口と其力相應ゝ絲口を異にするとのごとあれども果して充分ゝ其技倆を測り得らるゝものある歟好し其技倆と測り得るも眞正ゝ力丈々の糸口を與ふる事の出來得べき歟生絲の景氣ゝ伴ふて無理ゝも四口と與ふる等の弊ゝ陷いるとはなき歟回顧すれい明治八九年の事ありき坐繰に二口取の工夫となすものありて一時流行せんとせしぞ二口い粗製ゝ流れ市價を失ふたるゝ神奈川縣れ如きは諭達を以て之を禁ぜるゝ至れり器械の四口と坐繰の二口ゝ比すべからざるも余の實業ゝ暗き未だ以て四口取ゝ同意と表そると能はざるものあり甚だ不祥ある中分なぞら福島神奈川の覆轍ゝ陷いるとあからんと切ゝ製絲家ゝ望まざると得ず是れ余ぞ婆心あり

器械製糸ゝ次ぐものは坐繰なれども坐繰い兎角不振の有樣あれば之を記載そるの價値なきも其起業の容易あるぞゝめ一昨年に於てい其産出器械糸ゝ一倍せり

而して但馬製糸の最も重あるい手繰よして全産額の四分三を占めたり蓋し手繰は丹後向と稱するものにして丹後の縮緬屋ゞの買入るゝ元資なりサレハ其糸質の善悪い寧ろ問ふ所よあらぜ春蚕よ孵れ夏蠶あれ其價廉あれバ何れも忌を嫌ふ所なきより製絲家い絲質の善悪に頓着なく養蚕家い蠶種の良否に掛念なく只管廉價に製せんと夏蚕を飼ふて手繰を製し華主を丹後に得んとするより蠶糸業の改良容易に行はれず面倒ある手數を省き飼育し易き蠶種を求めんとをてい知らず〳〵蠶業と衰頽せえむるの愚に陷いるもの少からぜ第二表に掲げたるが如く夏蠶の流行盛んよして春蠶を壓し春蠶れ収繭夏蠶四分一なるい我但馬國に蠶糸業の未だ盛あらざる兆にして我縣下のために歎そべきとあり但馬の製糸家よして丹後の華主を第二位に置くの位置に進歩せざる以上い立樹の桑も減せざるべし夏蠶も衰へざるべし手繰も産出の大半を占むべし然りと雖も未熟ある養蠶製絲家にありてい丹後向の製糸も亦た棄つべきものにあらぜ只丹後向の元資を求むるの方法を改めい可あり現時の如く善悪混合して丹後向を製するい吾人の執ふざる所あり但馬の養蠶製糸は其由來頗る久きも其事業は充分なる發達となさ

ぜ桑と立樹よして蠶と夏蠶多し立樹の桑は養蠶上種々の不都合あれども其最も甚しきは雨天の節之を乾燥するに良法なく雨桑と蠶兒よ與へ可惜蠶兒を斃死せしむると多し彼れ刈桑の設ひ雨中よ刈込むも一本の竿容易に之と乾燥するものよ比すれバ同日の談よあらぜ殊に立桑は蠶兒の嗜好に適せざる歟給桑の三四分ば毎に喰殘すの憂ひあり然るよ刈桑なれバ給桑れ全部を喰尽し剩す所只莖幹のみサレバ立桑を百目與ふべき所に刈桑六七十目と與へて充分に飼育し得らるゝもれなり或人の説に立桑の繭は彈力弱く糸目少しと云り眞に彈力弱く糸目少き歟果して弱少ありとすれバ其比例い如何のものなりや吾人未だ之を探窮せざれバ之を斷言すると能いざるも粟鹿製絲所長日下氏の如きも稍此説に同意あり然ども未じ經驗あげれバ斷言すると能いざるも明年い十分ある試驗とあすの見込なりと云へり何れ試驗の報告を見て他日其是非と判すべきも今日通例の立桑培養法を見れバ絲目少く彈力弱き筈あり立桑の桑園但馬全國に跨れども桑れ肥料として油粕締粕等を與ふるものありや吾人の知らざる所あり偶々此等の肥料を與ふるものあるも桑れためにあらずして間作のためあり桑は間作の殘餘を吸入

するものありサレバ桑葉ヨ滋養力ハ少きい不得止の次第なり滋養力少き桑葉を以て飼育したる繭に絲目の少く彈力の弱きも亦た當然のことあり然れども立木に十分なる肥料と與へんとすれバ枝葉より樹幹を培養そることゝありて損失相償いざるの結果を見るべし願ふに立樹に肥料を施さゞるい多年の經驗此結果を見出したるゆためあらん歟此等の原因い兎も角も但馬繭ヨ絲目の少く通例平均八匁前後ありとい各地の製糸家ゆ親しく余に物語りし所なり之と函東繭の通例拾匁以上拾三四匁の糸目ヨ比それバ甚だ劣等あるものありと云いざるを得ざるべし糸目の少きい桑葉のみハ結果にあらず飼育法の改良せざるも亦た其一原因ありとい云へ食物の良否が動物の發育ヨ關係そるとい生物學士ハ定論なり此説果して是あらば立木ハ桑園早晩改良せざるべからざるなり

桑園の改良ヨ次きては夏蠶飼育の廢棄なり夏蠶を飼育するの利益は種々ありて今容易に之を廢すべからざるも夏蠶い收繭割合に少く其糸質亦た劣等なるとい製糸家の毎に唱道する所なり之を生絲に製せん歟光澤惡しく彈力弱く輸出絲として價も下等あるものあり幸ひに丹後縮緬屋の價廉あらは之を購求する位なり

縮緬屋と雖も春蠶糸を好まざるにいあらざるべきも價格のためヨ不得止夏蠶糸を使用するとあらん願ふに當時の如く各府縣に蠶糸の創起するヨ當りてい丹後縮緬屋も廉價に春蠶糸を用ひ我但馬糸即ち廉價ある夏蠶業を顧みざるに到るやも知るべのらす他日販路塞りて其計とあすい既ヨ晩し今日ふ於て他日の遠計をあすい我蠶絲業家の遠慮にいあらずや

立木の改良夏蠶の廢止とい少々趣きを異にすれとも但馬製絲家の注意を請ふべきは屑物の賣捌あり例へば生皮苧の如き其品位の優等あることと數量の多きとい日本國中恐くい比肩そるものなのらん然れども横濱生絲市場に於て但馬生皮苧の名と聞のざるい不思議にあちずや某氏の概算によれば年々產出ハ生皮苧は三万梱内外なるべしと三万梱の屑物は決して尠きにあらず然るに横濱に於て但馬生皮苧の聲價あきは江州商人の但馬に入込みて之と買占め江州製の粗末なる生皮苧と混合して横濱に輸出するゆためありと生皮苧の優等なるい製糸の拙あると繭の下等あるゆためなれば餘り喜ふべきとにあらざるも生糸に名譽を博すると能はずんば責てい屑物なりとも其名を著したきに江州生皮苧と混同せられて

其聲價と保つと能はすとい殘念なる次第にはあらずや

○飼桑の説

福島縣農商課員　渡邊明義君寄稿

桑は蠶の生命糸の前身なるを以て桑種の撰まさる可らさるは言を俟たす而して之を給そるにも亦新鮮なる桑葉を用ゐさる可らそ然るふ世の養蠶たる者此に顧慮せそ大概前日に摘み置きたる桑を給そるを以て法と爲そものゝ如し此法たるや蠶家多年の實地經驗上より得たる習慣法なると以て今一概に排除そへきものに非そと雖も此養法に依て蠶を養ふときは多量の桑葉と與ふるも排桑となるもの多くして其割合には收繭と得ざるのみあらそ幾分か光澤を損そるの憂ありて蠶種家に非るよりは得失相償ひ難きの結果を見るに至るべし何とあれば前日に摘み置きさる桑は水分と滋養分とを減ずるか爲め其量目も隨て減少そるのみならそ貯蓄法其宜きを得さるときは損桑となる者少あからそ其甚しきに至ては腐敗の氣と釀し爲めに蠶兒の大害物たる例の(バクテリヤ)を釀生そるに至れはなり夫れ是の如き損失と危害とを兼ねたる者にして今尚之を改めさるものは何ぞや

他なし從來の養法たる室内の温度をして増減そることなく勤めて平等に温氣と保つを以て主眼とそれはなり而して其室内の温度と増減あからしめんとを主眼とそるは何そや蠶兒に不快と感せしめさらんとを慮かればあり然れ共其既に桑葉を與ふるときに至ては仮令室内の温度は變易せすと雖も蠶坐中の温度は心す減するものなり是れ不快を感せしめさらんとを慮りて却て不快を感せしむるに至るなり一体蠶は暖氣に遭て食欲と起そるものあるに其食を與ふるに際し温氣を減せしむるか如き仕向を爲すは養法の宜きを得たるものには非るべし但新鮮なる桑は前日摘みれ桑に比それは水分多きを以て室内均一の温度と以て與ふるときは時に蠶をして濕氣に感せしむるれ憂あしとせさるか故に新鮮なる桑を與ふるには必そ室内温度の増減斟酌を爲さゝる可らす温度の増減斟酌を爲すの方法は事甚た容易にして一両年間養蠶に從事せしものあらば速に自得すると得へし一旦其法を自得するに於ては特り食桑を減するのみならす病蠶を釀し速蠶を招くの憂なく其利益を得る豫想れ外に出るや必然なり然れとも其養法の如きは本題外に渉るを以て此に述べそと雖も凡そ其業に從事そるもれにして是等利害れある

所を講究せす依然從來の習慣方法と墨守するゞ如きは予れ甚採さる所也故に聊
か予か多年實地經驗上より得たる飼桑の一事と概記して以て世上養蠶家に注意
を促さんとす

○祝辭

山形縣農商課長
兼農事講習所長　室田充美君寄稿

古人梅花に詩雪に詩等に梅雪の字を用ゐざりし例より飜案し蠶。繭。糸。殖
産。物産。改良。進歩。熱心。事業。等に字を禁す

邦家に隆興して以て富强を致すに至るものは必す耕織衣食よりし家給し人足る
に始まる其農工商の別ありと雖も要するに力稼に基づかさるはなし然とも若し
其方針にして宜きを得さるあれば則ち困苦徒勞遂に志を荒ましめ家を破るに至
る豈警め戒めさる可けんや蓋し方針は猶ほ廟算の如し古人曰く算多けれは勝ち
算寡けれは敗ると今夫れ發生より上簇に至り烹煮より束裝に至るまて期節繁忙
夫は沐するに閑あらす婦は食するに暇あらす其狀洵に辛勤なり然とも其心怡々
陶然たるものは何そや齊家に術方針既に定まり經營に目的に立てはなり是れ

諸を眞に室家に樂みと云ふへくして樂み其中に在るものは飽食逸居遍身綺羅の
人と雖も或は想像し得さる所あり嗚呼儉素に慣養せらるゝ纖々たる女手を以て
能く海外に一千万圓以上の利益を收むるものは未た曾て他に之あるを見す豈大
あらずや然とも大は則ち小の積あるか故に小にして方針を誤れは遂に以て大を
成す可からす其小より大に及ぼすへきとは古の所謂國を治めんと欲する者は先
つ其家を齊ふと云ふもの是なり故に能く此に詳思し困苦徒勞に懸きを捨てゝ快
樂力稼に好きを取らんと欲する者は必す先つ其方針を擇まさる可からす方針に
して宜きを得れは則ち以て家を興すべく乃ち以て國を富ますへし果して能く此
に至れは夫れ蒼海も亦まさに之を變じて田となすも可ならん歟是れ方針の指す
所あらん歟方針發刊に盛舉あるを聞き聊か方針の講究せさる可らさる所以と陳
へ謹て祝意を表すと云爾

○蠶業方鍼の發行ありと聞き喜の餘り所感を記して之を寄せて

群馬縣　田島棟平君寄稿

寶貨を載せたる船舶は大洋中にあつて賴むへくして欠く可らざるは何物ある乎
或人答て曰く順風なり曰く否こは漕船あれば敢て風力を假るを要せざるなり曰
く蜘網狀となせる帆網若くは石炭あらん曰く否此の如きものは必要い則必要ゐ
れとも問ふ所のものに非す曰く然らい船長と之に屬する機關手及ひ水手ならん
と抑も此の答い乳臭兒若くい平々凡々者は口より出る辭にして苟も襁褓を離れ
たる一己の見識あるものい此答を聞て噴飯するなるへし他なし船長及機關手等
の資て以て船を走らせ彼の岸に達そるを得るい船に備へたる所の磁針名を換れ
い方鍼盤は力にして或人は答辭甚た淺近あればあり何とあれい則ち若しも此方
鍼盤と用ゐさふんか爭て船を走するゑ困難ゐるのみかは或い暗礁に衝突し或い
進路に迷ひ歸路を失ひ再び夫の「ノルマントン」號又い畝傍艦の二舞を演するなき
を保そへからそ

我國の蠶業い東西に南北に到る處開けさるなく栽桑に飼蠶に製糸に傳習所の建
築ゐり研究所の設立あり余輩い實に慶賀の極手の舞ひ足の蹈む所を知らさるゐ
り夫れ然り然れとも深く之を思ふに多く桑を栽ゐ多く蠶と養ひ多く絲を製する

のみなるは宛も船に寶貨を積み水手機關手と船長とい己に乘込そしに惜りゐ一
の磁針盤と欠けると一般なり是れ此の寶貨は載せ將つて何くに之かんとするや
方向未た定まふざれば漫に纜を解くこと能いさるへし是れ愚鈍ゐる余輩の腦裏
に蠶業は盛なるに伴ふて結ひたる氷塊ゐり
然るに古人の詠せる歌に曰く〔袖ひちてむすびしこのこほれるをとるたつけふ
のゆせやとくらん〕と今や東台の花笑ひ向島の雨香しき時に當り余ゎ腦裏は氷塊
も融然として溶解し去つて眞に快然たるを得たと其は氷塊を溶解して快然たら
しめしもはい何そや薫風に送られつゝ來りたる蠶業方鍼發行は嘉報則ち是なり
蓋し蠶業方鍼にい己に航海に熟せる最も貴ふへき技師學士諸君と機關運轉に習
ひたる各地老練家諸氏の偉説卓論を掲けらるゝなれい則ち我國は蠶業を載せた
る一大巨船い此と磁針盤とあして何れの海を航し何れの陸ゑ赴くも碧涙を蹴て
白玉とあしつゝ進むとを得へければ之嗚呼余輩い不文と雖も此の快然たる喜を
得て何そ默そるに忍びんや依て之か所感と筆し蠶業方鍼社に寄そ

質義

○第一問　熊本縣　赤坂道三君

近頃繭の解舒し難き者にハ「ボーラッィ」と云へる藥品を投入して繭を煮る時ハ解舒宜しく光澤も亦た宜しとて之を用ふる者ある由聞つるか果して然るや否や

○第二問　仝

繭ハ解舒ハ烹煮に依(幾分かハ依ふん)るにあらずして蛹の体中に含有せる亞爾加里性(蛾か繭を破り出つる時吐出をる液是れなり)の煮出るに依るとの説あり若し此説として眞あらしめば殺蛹上燥殺法ハ繭の護謨質として固結せしめ之か爲め繰糸の際其解舒宜しからずとの説ハ全く虚論に屬するの如し如何

○第三問　長野縣　須田某君

佐藤傳平君の第二號第三問の答へハ一千頭の給桑量れな成繭の成蹟如何にも多くして實際に適ハさるか如し如何

○第四問　埼玉縣　養杉居主人君

第三號第一問に答へたる表中往々(らちわく)算の合ざるものハ共個ハ植字の誤りとして

問ハも其第四表ハ魯桑の効用に答られし者にして桑園壹段歩の魯桑と日本桑の多寡及原紙一枚の蠶兒と飼育せし標準なり其表の成繭合計と説明の石數と合とす且其説明中第四表は壹段歩の桑園(魯桑四百貫目日本桑二百貫目)より採收せし桑葉を以て云々とあり右の表に據れハ日本桑ハ二反歩の桑を以て原紙一枚の蠶兒を養べく魯桑ハ一反歩の桑にして尚百貫目れ桑と餘す者の如し然れ共答者ハ意ハ一反歩の桑園へ魯桑と日本桑を植付置六百貫を採收せしもれありや何分我輩に不明瞭あり又(僅に一反歩れ桑園より魯桑の方ハ壹石九斗八升九合七勺の増額あり)と是亦原紙壹枚の蟻量と一升の繭數を明記せられされハ知悉する能ハすと雖も仝數の蟻量にして成繭數に大差あしとせハ魯桑と以て養ひし蠶繭ハ必らす大あるべく蟻量仝じく一升の繭數大差なしとせハ日本桑と以て養ひし蠶兒ハ飼育中遺失蠶の多のりし者あらんの何分魯桑れ成繭の多額差違の多き實に我輩確信そる能ハも宜しく我輩の如き不敏れ者にも了知せらるゝ様掲載ありたきあり只魯桑ハ善良にして滋養分多く隨て成繭多しとあふた我輩又何とゝ言ハん

應答

○第三號第四問

米麥は黴(麹花の類を云ふ)に就ては未た實驗せざるを以て其害の有無を明言するを得ざれ共幼稚の地方にて麹蓋抔を以て飼育すると見れば或い害なからんも他日を待て確答する所あらん

○第四號第一問　大分縣　社友小俣參伍君

現今沃度肥料は名稱い世間普通あれども沃度い重に海草より採り其粕を肥料と爲すもはなれも沃度粕肥料と稱する方妥當あらん其い兎に角沃度粕肥料い如何ある質を含むと云ふに重に「ポッタース」を有そるものあり而して我國は土質い之と同性なる「ポッタース」を含有するもはなれば問者の云ふが如き大効いあるまじと考へらる(但し沃度肥料を用ゐるにい普通肥料殊に人糞を混用するを最も宜しとす)已に「ポッタース」質を含有する地に成長する桑葉にして蠶に害あきを見れば沃度粕肥料を施せる桑葉を與ふも害なきを推して知るべきあり

○

○農務局蠶業試驗場掛員並教員

蠶業　岡毅　牛込中里町廿一番地
練木喜三　小石川諏訪町
齊藤素軒　本郷駒込西片町十番地
植物　田原休之丞　蠶業試驗場內
理學。氣象　本田岩次郎
化學。桑樹栽培　右同　林雄也
動物　右同　斷孫三郎
顯微鏡　小石川表町六十番地
芝山宗太郎　本郷西片町十番地
養蠶術　松永伍作　蠶業試驗場
高野三子之進　牛込市ヶ谷山伏町十二番地

○蠶種檢査法傳習助手並試驗室手傳　田島棟平　群馬縣佐位郡島村
柿沼平吉　同縣邑樂郡大高島村
轟木長　鹿兒島縣串本野郷
宮崎有斐　群馬縣佐位郡伊與久村
小林薫司　同縣多部郡吉井町
鈴木貞太郎　茨城縣多賀郡大久保村
小俣三吾　大分縣東國東郡下原村
三浦齊　同縣大分郡河原內村
橋本定吾　同縣北海部郡臼杵町
吉池慶正　山形縣南置賜郡西仲間町
町田騰馬　愛媛縣伊豫國今治
石塚萬之助　鹿兒島縣出水郡出水郷
庄田誠太郎　石川縣金澤區西町
高畠正泰　東京府
青木五郎　佐賀縣

◎農務局蠶業試驗場傳習生

東京府
東多摩郡下高井戸村　富小路治直
麹町區富士見町六丁目志波方寄留野口與太郎
八丈島　大澤清一郎
麹町區六番町五十一番地　津田安麻呂

京都府
丹後國中郡河邊村百七十六番戸　瀧野平兵衛
仝國天田郡猪崎村二十一番地　山段友吉
山城國紀伊郡大下津村十六番戸　中岡文藏

大坂府
交野郡田口村二十七番屋敷　江田清太郎

神奈川縣
西多摩郡日影和田村　久保源太郎
南多摩郡貝取村　濱田喜一

兵庫縣
明石郡大藏谷村　高島正領
美含郡若松村　伊藤源左工門
宍粟郡五十波村　山林松太郎
神西郡森垣村　小田武藏
加東郡木梨村　三宅辰太郎

長崎縣
北松浦郡市瀨村　井手大五郎

新潟縣
北蒲原郡金屋村　五十嵐惇爾
仝郡中條町　野澤文吉
古志郡森上村　磯部伊右工門

古志郡卷淵村　小林長太郎
中頸城郡末野村　石渡憲

埼玉縣
北足立郡飯田新田　齋藤正則
仝郡堀場村　飯島近三郎
北葛飾郡外國府間村　町田三造
比企郡下押毛村　煖本宗助
北埼玉郡大越村　柴生田忠三郎
高麗郡女影村　田中吉太郎
賀美郡恐保村　齊藤柳太郎
兒玉郡太駄村　中里萬次郎
榛澤郡北阿賀野村　島田秀三郎
大里郡小島村　瀧澤仙藏
兒玉郡本庄宿　野山田林藏
幡羅郡中奈良村　野中善三郎

群馬縣
吾妻郡須川町三十九番地　森下殿太
仝郡本峯須川町四十四番地　本多六三郎
仝郡伊勢町三十二番地　小池安吉
北甘樂郡下高田村七十四番地　神部兼藏
仝郡下丹生村白十三番地　町田竹十郎
新田郡平塚村九十番地四十二番地　北爪長太郎
西群馬郡井出村　友松仙太郎
北甘樂郡砥澤村二十番地　淺川倍藏

千葉縣
東葛飾郡新作村　齋藤國峯
望陀郡戸崎村　花森吉
武射郡中津田村　檀文藏

印幡郡山田村　五十嵐浦太郎
望陀郡寺澤村　仁科德之助

茨城縣
水戸上市荒木町　矢田龍彥
北相馬郡新宿村　野本德三郎
眞壁郡宮後村　西村良助
仝郡關本上町　箱守龜吉

栃木縣
下都賀郡栃木城內村　丸井哲之助
那須郡小口村　大森七九郎
芳賀郡下籠谷村　野澤彌槌
仝郡加倉村　篠崎耕作
上都賀郡鹿沼宿　吉住傳次郎

奈良縣
添上郡奈良寺林町　和角誠之
忍海郡南花內村　堀內忠三
三重縣
河曲郡江島村　杉野寅吉

愛知縣
三河渥美郡下細谷村　前田喜市
仝南設樂郡長篠村　鎌子信治
仝北設樂郡稻橋村　小木曾知三郎
尾張愛知郡熱田旗屋町　岡本五郎三郎
三河渥美郡大岩村　山本豊三郎

山梨縣
東山梨郡日川村　小西傳八
仝郡仝村　竹津駒次郎
中巨摩郡落合村　新智傳吉

東山梨郡國部村　秀野貞之
東八代郡御代咲村　古屋彥太郎

滋賀縣
東淺井郡野瀨村　押谷長太郎
仝郡川道村　福本久四郎

遠江周智郡久能村　久永貞次郎
仝榛原郡大幡村　八木本之助
駿河有渡郡聖一色村　寺尾昌太郎
伊豆賀茂郡片瀨村　森田龜次郎

岐阜縣
美濃本巢郡早野村　高橋雅之助
仝國郡卜八幡殿町　多賀茂
飛彈大野郡高山町　森川潔夫

長野縣
南佐久郡豐里村　小池粂平
小縣郡上撫尻村　馬場直次郎
諏訪郡四賀村　山崎右源治
仝郡上武石村　清水常次郎
仝郡芳田村　小山艶作
仝郡本原村　溝口與三郎
上伊那郡藤澤村　伊藤貞雄
下伊那郡山吹村　平澤和三郎
上水內郡淺野村　佐藤本一郎
下高井郡天神堂村　川野要元藏

東筑摩郡柿澤村　笠原銀一郎
仝郡和田村　上條吉次郎
仝郡盥尻町村　下村

東筑摩郡小俣村　大和安雄
仝郡神戸新田村　小松常藏
仝郡山形村　百瀨美賀藏
南安曇學校訓導　平林早次郎
上伊那郡中箕輪村　有賀壽三郎
下伊那郡喬木村　原陸藏
東筑摩郡筑摩村　三溝庫次郎
諏訪郡上諏訪村寄留　後藤竹次郎体
諏訪郡平野村寄留　荒谷國太郎
埴科郡内川村　瀨在
福島縣
伊達郎藤田村　秦須田又十郎
仝青木村　半澤佐七
伊達郡長岡村　菊田茂一郎
仝月舘村　野田兵五郎
河沼郡立川村　大庭小太郎
仝所澤村　前田左門
大沼郡勝原村　坂田深七
仝吉田村　森四郎
耶麻郡千代田村　衣笠政剛
氣多郡大倉村
宮城縣
登米郡米谷村　佐々木藤太郎
仝北方村　々木芳兵衛
宮城郡芋澤村　大槻廣八
仝伊在村　狹川金太郎
遠田郡北浦村　岩住玄七
栗原郡眞坂村　松田茂右工門

名取郡長袋村　沼田久吉
伊具郡丸森村　小野惠之助
西閉伊郡下宮守村　熊谷重右工門
岩手縣
上北郡相坂村　江渡憲
三戸郡八戸常海町　木村熊彌
上北郡野邊地村　霞元司郎
菊池歡吉郎
秋田縣
鹿角郡花輪村　奈良庄兵衛
仝毛馬田村　石川啓太郎
仝大湯村　一方井末治
河邊郡舟岡村　泉波爲治
河邊郡三段新屋皆南町　小西政之助
雄勝郡湯澤村　加藤長穗
平鹿郡增田村　石田宇吉
仝石成村　原安太郎
山形縣
南村山郡上山鶴脛町　瀨尾榮作
西置賜郡小國町　杓矢小太郎
石川縣　黑川屈而
石川郡能美郡辰口村　金子式藏
金澤區中右引町　小林安藏
羽咋郡中川村　高杉谷市郎
河北郡小坂村　嘉六
福井縣

若狹遠敷郡府中村　內田鐵藏
仝郡湊村　永井芳太郎
越前南條郡清水村　高木寬藏
仝今立郡常安村　和田巧
足羽郡下河北村　三崎辨吉
鳥取縣
因幡氣多郡賓木宿十五番地　木下昇一
仝八東郡若櫻宿　君村邦次郎
仝八上郡小河內村　谷口芳太郎
島根縣
出雲意宇郡乃木村　大野歡次郎
仝神門郡今市町　木佐源市
石見邑智郡川本村　楫部孫造
岡山縣
備中阿賀郡津々村　庄又年
仝小田郡笠岡村　濱德三郎
美作吉野郡笠岡村　土居伊太郎
仝西北條郡小田中村　秋山眞二
廣島縣
備後奴可郡東城町　百々規矩郎
仝久代村　名和義夫
安藝賀茂郡上保田村　平賀迅夫
仝郡豐田南方村　神田兼太郎
沼田郡西原村　沖本彌一市
高田郡常樂寺村　武田倉吉
安那郡上御領村　森政謙吉
山口縣
長門厚狹郡厚狹村　木村幸三

長門厚狹郡厚狹村　粟屋活輔
仝豐浦郡小月村　古志駒太郎
仝玖珂郡多田村　鹽治一比古
和歌山縣
伊都郡學文路村　林憲光
愛媛縣
新居郡氷見村　久門高次郎
北宇和郡宇和島　宮本貞次郎
德島縣
阿波郡西林村　佐光貞平
香川縣
三野郡岡本村　宇川利邦
阿野郡陶村　楠原安太郎
大喜多友八
高知縣
土佐郡小高坂村　片山要三郎
仝郡石井村　秋澤齊
長岡郡小市村　杉本茂晴
福岡縣
下坐郡三奈木村　安倍勝太郎
志摩郡御床村　御床賴
怡土郡一貫山村　德田健之助
仲津郡續命院村　村上保之
築城郡椎田村　小袋熊太郎
大分縣
直入郡狹田村　甲斐九郎
速見郡日出村　今村貞吉
東國東郡鬼籠村　高野長九郎

國郡　氏名

佐賀郡　佐賀縣
赤松町七番地　熊本縣
山鹿郡中村　岡部藤十郎
仝中川村　關誠一
玉名郡木葉町　阪田清爾
球磨郡人吉南町　大古閑純孝
仝郡深田村　隈部敬止
宮崎縣　德永市十郎
北諸縣郡樺山村　溝口寛作
鹿兒島縣　一井末藏
大隅菱刈郡前目村　黑丸秀雄
薩摩鹿兒島西田町　日高源次郎
富山縣　安藤千代二
礪波郡和泉村　篠田昌武
下新川郡今石動町　田中伊三右工門
仝浦山村　大澤岳
射水郡赤懸村　松本喜太郎
婦負郡北代村　前野吉左工門
射水郡若杉村　恆田初太郎
蓮田東

小幡信篤君譯
發氏

○養蠶論

全一冊洋裝背皮金字入紙數三百三十ページ余
銅版細圖入實價金八拾五錢郵稅金三拾二錢

目錄○蠶を鑑定するに顯微鏡を用ふる論○蠶卵々圍卵心の說○蠶卵を貯藏し冬を越さしむる法○蠶卵發生の事○蠶虫○蠶の諸形器を論す○細胞体及其變形分と其組織とを論す○蠶養諸器を論す○呼吸器を論す○血液循環の裝置と論す○蠶の分泌諸器を論す○運動基を論す○神經裝置○脂肪組織○皮膚○脫皮○蠶の營養を論す○養蠶篇○養蠶初期適應の時限○養室溫度の規則○飼養法○位置の淨潔に就て論す○蠶を分置も可き區面の廣幅を論す○蠶室內の通氣及適應の溫を維持する方法を論す○蠶の繭を作る場所を營む事○蠶の絲室即繭○繭中に含蓄せる蠶蛹と殺す事○蛾の論○蛾の陰具○熟卵及產卵○普通卵の法○蠶糸幷に其性狀○養の繭を造て蛹となる事○蛾の論○常蠶の疾病○微粒子病コルブルヘン○究理的紙製造法○桑蠶の種別及ひ其交接の或に利益の論○常蠶の疾病○微粒子病コルブルヘン○究理的の性質幷合密的の反應○蠶の微粒子病に罹る有樣を論す○顯微鏡檢查に因つて蠶種を撰擇する方法を論す○卵種製造に付て器械の裝置法○卵種の製造に附て撰用すへき繭の鑑定○蛾の交接と毎對分離すへき法○顯微鏡と以て蛾を檢查する法○卵種と洗淨する法○傳染病の危害を豫防するの法○弛緩病ステフスート○硬化病俚名オシヤリコ○主要とする蠶病を論す

養蠶は術たる至難至難にして尋常一樣の舊法に拘泥し以て至當の方法を研究せさるときは時として不測の損害を招くに至るへし蓋し蠶の物たる氣候の順否蠶場構造の適否及ひ其飼養の善惡等に依て種々に變化し大に發育上に影響を及ぼす者なるか故に養蠶を事とするものい啻に一定の規範尋常の習慣を墨守するのミにてい未た足らす宜しく蠶の性質機能より其生理上の諸形器を詳にし又養蠶に適切なる方法を研究して其千樣万化の變狀に應するの技術をかゝる可らす本書と有名なる獨國「ハーベルランド」氏の著述に係る者にして總て養蠶に關する必要なる諸項を網羅して遺さす詳細精密に之を論述せり近來我邦養蠶の業大に進歩盛大を極むると共に養蠶書の類亦頻々上梓して世上に普行するに至れり然れとも其精密詳細なるは未た本書の右に出るものなきを信す諸君幸に御愛讀を乞ふ

長沼辨次郎君編述
原理
應用

○栽桑新書

洋裝金字入美本　全一冊　定價金九拾錢　郵稅金貳拾八錢

目錄○第一章總論○第二章生理略說○第三章土壤○第四章灌漑○第五章排水法○第六章肥料○第

高橋信貞君著

蠶絲業道中記

洋裝美本全壹冊　定價八拾五錢　郵稅貳拾四錢

本書は有名ある扶桑蠶史の著にして第一回より蠶業の大勢を論し第二回より横濱港以來の沿革を述べ第三回に蠶絲業の得失を論し第四回に蠶業上保護奬勵の必要を論し第五回に我邦製糸場の現況を寫し第六回に製糸家の心得べき大意を說き第七回より製糸用の水質を論し漉水法に及び新發明漉水器の事を併述す第八回に水質試驗の方法并に蠶の絲質を說き第九回に製絲機械の造搆を論し建設地の事に及び第十回に殺蛹法の得失を論し貯繭の事に及び第十一回に撰繭法の必要と論じて纖維試驗の方法に至り第十二回には蠶絲業の未來と題して繭の改良と共に大に工業を進め內い養蠶家の經濟を維持し外は機業者の嗜好を滿し彼是共に利益を永遠に保續せさしは販路壅塞の障害に逢ふべきと痛論して局を結ぶ而して著述の脚色西洋小說の風致あり才子佳人等幾個の人物と捻出し應答の間其言を借り蠶業の要領を述ぶるものにして蠶史は即ち書中の主人公なり讀去り讀來るの間倏忽化して夢となる其夢胡蝶にわらずして蠶蝶の要旨是蠶史滿腔の精神溢れて此新著とある苟も蠶絲の業に志す者一本を購ふて蠶史先覺の明を判知せられん事を

田村多門君編

學理經驗實地養蠶論

洋裝假綴全壹冊　定價六拾錢　郵稅拾六錢

此書ハ養蠶上目下必要ナル諸件ヲ學理ト實地トニ照査シ尤適實ナル方法ノミヲ蒐集編成セルモノニシテ傍ラ和漢洋ノ養蠶著書中ヨリ編者ノ意ト的合セルモノヲモ拔拾引用セラレタリ書中飼養、製種、蠶病、桑園ノ四大部ニ分チ通編三十三目ニ成ル且ツ篇末ニ微細ノ圖畫ヲ加ヘ實地照合ノ便ニ供ス夫レ近時蠶桑ニ關スルノ著書日一日ヨリ多ク精ヲ勤メ巧ヲ競フ讀者事業ニ施シ其利害ヲ褒貶ス此ニ於テ歟本書ノ如キモ編者頗ル注意シ雜粕ヲ去リ其粹ヲ集ム蠶桑書中古今獨步ト云フヘキナリ

農業書肆

東京々橋區南傳馬町二丁目十三番地　有隣堂　穴山篤太郎

○伊藤精一君著　養蠶專用

驗濕器表

洋裝假綴全壹冊　定價金貳拾五錢郵便稅金六錢

養蠶には最乾濕の適度を要するものにして一日此適度を誤れは疾病を釀さしめ或は斃蠶を生し不測の害を被らしむ故に乾濕器の設け必用にして此表の欠く可らさる所以あり此表は製造法位置及用法蠶卵保護並に飼育中濕氣の適度等を卷首に置き其効用を示す養蠶者此書より就き毎戸一器を備へて蠶兒の健康を保全し失敗の憂ひあるとなからん乞ふ諸彥購求して効用の顯著あるとを知られんとを

○眞下珂十郎君口述　山本秋古君圖工

室圖考

全壹冊　定價金拾貳錢五厘郵便稅金貳錢

養蠶に緊要あるものは空氣の流通と寒暖の昇降を節度ならしむるにあり然るに近來家屋の建築宏壯華麗に赴くを以て空氣の流通等從來粗造の家屋等より宜しからを爲めに蠶病を釀し失敗を來す者尠からを此書は養蠶者より家屋を改造するもの又は一部の改良を謀る者の爲にと必用の書なり

○田島武平君　練木喜三君　質問答述

蠶桑生理問答

全壹冊定價金四拾錢　實價金三拾五錢郵便稅金八錢

此書は理化の本原より甚きて蠶糸の生理を問答したる書あり加ふるに蠶体解剖の密圖を附記を發兌以來數千部を販賣し蠶業家有益の書たると知るへきあり

○質問　池田常藏君　答辨　淺野德三君　練木喜三君

蠶桑病理問答

洋裝假製第壹編第貳編貳冊出版　定價金四拾錢郵便稅金八錢

本書は養蠶に於て熟達ある池田淺野兩氏の蠶桑病理に付疑問を擧て農務局員練木君に質問し悉く辨解を受け病理と知得し實業上に益をる所尠からを依て該問答を編纂し同君の校閲を乞ひ完全の良書とあれり今や世の養蠶家に參考に供せんと欲し弊舗請ふて發兌をる事となれり四方の諸君購讀して學理と經驗の結果と知られんとを

發兌

東京京橋南傳馬町貳丁目拾三番地　有隣堂穴山篤太郎

七章桑樹之種類○第八章桑樹蕃殖法○第九章養苗圃○第十章整地及植付○第十一章樹形仕立方○第十二章耕耘及ヒ施肥○第十三章桑樹の病害○第十四章伐採及ヒ貯桑○附錄

本書は編者桑樹栽培に熱心なるを以て明治十五年の頃より今日に至るまて桑樹栽培に必要なる事項を調査し他日の參考として最も精確緻密に錄したる者なり其主なるハ山梨縣農學校に於てハ教頭河村九淵氏に付き農務局蠶業試驗場に遊ひては澤野小野兩氏に付きて討論推理せる等皆親しく學術の補益を得たる事實にして之を實地に試驗して奏効著明なるものと理化の原理を應用したる幽玄微妙の結果にして其成蹟は更に增補編入せられたり夫れ養蠶の業を興さんとするや桑樹栽培に從事せさるへからす好しや自ら栽植せさるも其飼養と桑樹の供給額に應して消長せさる可らす桑樹の栽培實に此諸に附す可らす此業の重要なる斯の如く然るに桑樹栽培に其全なる書なきハ斯業の遺憾とする所此書は實に桑樹の生理より説き土壤、排水、肥料、蕃殖、耕耘、施肥仕立法害虫等に及ほし徒らに文飾を加へす一ら當業者に理解し易からん事を旨とせられたり編者首めに善美を全くするものに非す唯桑樹栽培の理を説述するに過きすと言へるも甚た謙讓の辭にして既往にあつて固より今來とも未た斯の如く整備完全なる者を見さるなり桑樹の栽培をなさんと欲せは此書を摸範とすへし必す正鵠を誤らす最少の費用を以て最良善質の桑葉を得る經濟の理に適合せるハ疑ひなきなり

發兌

有隣堂　穴山篤太郎

東京々橋區南傳馬町二丁目

農事新報

第六号三月廿日發行定價金八錢郵税金壹錢○拾冊前金郵税共金八拾錢

目錄●大略○農事新報○農家遠大の策○石灰論●論說○豕兒出產論○母豕取扱及飼養法○牧養屋飼利害○飼料價値鑑定法●寄書○藍作改良施肥○泥土肥料○三椏苗仕立法○蘿蔔害蟲豫防法○疏菜類蒔時利害○氣鬱の害○大根試作○綿蚜驅除法○魚肥○桑葉分析結果●博覧○入間救難法○醫事上統計●問答○桑の肥料の答其外十一件○統計○甘蔗藍菜種甘藷馬鈴薯收穫高○養豕數●雜誌○井上大臣の農業改進策○蠶糸改良都幾川會社○全國米作概况○共進會○農官○農林學校生徒卒業○其他廣告等數件

●桑畑貸地廣告

●●大農地あるが故に地子は安し
●●地味宜しきが故に收獲は多し

當農務所は十餘年前より千葉茨城兩縣下に於て十八ヶ所の農場を設け數千町歩の開墾に着手し今既に其過半を落成せるに際し全國一般養蠶事業の必要を覺知するの氣運に達せり然るに右開墾場の地味は試驗を經て殊に桑畑に適當なるを以て近來各地本場其他より或は會社を建て或は一箇人の事業として續々借地小作の申込あり依て熟畑新開に拘らす既に數百町歩を貸渡したれとも當農務所に於ても此氣運に乘し各農場を悉皆桑畑に變換するの目的なれば右殘餘の地所は此上幾百町歩にても望人に貸渡し桑畑小作為致候筈に付望の御方も借地規則等左の記名へ御問合あらんと冀望す

東京麴町區下六番町五十一番地
津田氏農務所
支配人　楠見信貴
桑畑掛　新山唯楠

農業雜誌

第三百三拾四號
四月十五日發兌

目次●農家建築法●家禽殖養法●雜報。數件●官報○數件●寄書○米性改良を望む、養蠶實行録養豚實驗說、養豚問荅、落花生栽培法●問答。墻田の堤塘に栽植すべき植物、牛の惡癖を直る法、牝雞の空卵に座すると止むる法、漬菜の良種○質問新題廣告●農業雜誌定價●一冊五錢郵税壹錢●半ヶ年分十八冊郵税共前金壹圓●一ヶ年分卅六冊郵税共前金壹圓八拾錢●見本の御要望は郵券五錢御送附あれ

東京麻布區本村町二百十七番地
學農社雜誌局

廣告

弊堂所在ノ村名ハ舊ト仁江戸村ト稱シ來リシガ前月ヨリ隣郷ト合併シテ西豊田村ト改稱セラルニ因テ廣告ス

明治廿二年四月

茨城縣豊田郡西豊田村
英國下院革弊史發行所
各種蠶種發賣所
固窮堂

群馬県立図書館
0495829-4

逓信省認可

蠶業方鍼賣捌所

東京々橋區南傳馬町二丁目十三番地
有隣堂　穴山篤太郎

○社告

○今般本紙特別寄書家農學士農藝化學士澤野淳君洋行せらるゝに就き歐州各國に於ける蠶糸上に關する要報を郵送せらるゝ乞ふ續々購讀われ

○本誌特別寄書家諸君偉論卓説御寄送被下候處編輯の都合に依り次号より陸續掲載仕るべく此段寄書家諸君に報謝す

○本誌は讀者をして蠶業上の景況を知らしめん爲め次号より廣く内外の蠶業に關する要報を登載せべし

○本誌は毎月一回十八日に發行す

○本誌は一部定價金六錢六部前金三十六錢十二部前金七十二錢但一部に付き郵税一錢申受候

○本誌廣告料一行（五号活字＝五字詰）一回金八錢三回以上六錢

○本誌代金郵便爲替にて御送附の節は本社宛にて本郷郵便支局へ御振込被下度候

○本誌代金郵便切手代用の向は一錢切手一割増を以て御送り被下度候

○本社の回答を要する御照會書には返信用郵券願上候

發行人兼編輯人　飯島重平
印刷人　池田孫左衛門
社主　犬童二郎
主監　岡野朝治
東京本郷駒込追分町二十番地
發行所　蠶業方鍼社

東京神田區花田町壹番地耕文社印行

小野寺文庫